

## 豚伝染病防止へ講習 畜産業40人、消毒法学ぶ



豚流行性下痢 (PED) の被害拡大を防ごうと開かれた防疫対策実働演習—31日、南城市大里の県食肉センター

【南城】豚流行性下痢 (PED) による被害拡大を最小限に食い止めようと、県中央家畜保健衛生所と県食肉センターは31日、防疫対策実働演習を南城市の同センターで開いた。県内の畜産業者ら関係者約40人が参加した。

県内では昨年10月から今年1月にかけて、3農家で233頭がPEDを発症。そのうち75頭が死んでおり、県は豚舎などの消毒徹底を呼び掛けている。

同衛生所の仲村真理主任技師がPEDの感染経路などについて説明した。畜産関係車両の消毒について「車両に付着した泥やふんをきれいに落とし、後に消毒することが重要だ」と話した。引き続き、車両やタイヤを噴霧器で消毒する実演があった。

## 豚伝染病で講習 車両の洗浄実演

県食肉センターで

【南城】県農林水産部と県食肉センターは31日、豚の急性伝染病「豚流行性下痢 (PED)」の防疫講習会を南城市の同センターで実施した。



噴霧器を使った家畜運搬車両の消毒方法を見学する運転手たち—31日、南城市大里・県食肉センター

同センターに家畜を運搬する運転手ら約40人が参加。県農水部職員が、PEDウイルスや感染経路などを説明し、車両の消毒を実演して、感染防止を呼び掛けた。

PEDウイルスは、感染豚のふんとともに排せつされ、口から感染する。県内では昨年10月、29年ぶりにPEDが発生し、ことしに入ってから2頭の感染が確認された。哺乳中の豚が感染すると、下痢で脱水症状になりほとんど死ぬという。

県食肉センターの上原正信社長は「センターには毎日、多くの家畜運搬車両が入り出す。車両の洗浄と消毒の徹底を呼び掛け、施設内でのPED感染を防ぎたい」と話した。参加者たちは、ウイルスを殺菌する基本手順の洗浄・消毒・乾燥を確認し、噴霧器を使って消毒薬を車両にかける方法を見学した。